

平成 30 年度第 3 回理事会議事録

日時：平成 30 年 12 月 8 日(土曜日)

場所：アイーナ 8 階 801 会議室

出席者：行森良一、菊池英岳、畠山秀樹、宮本祥一、高橋一博、川村将史、畠山裕司、
小野寺絵美、相原淳路

I 報告事項(行森)

・第 2 回北日本支部幹事会について

11 月 9 日に北日本支部幹事会が行われ出席した。北日本支部の平成 30 年度から 31 年度の学術部門長、部門員名簿(別紙)が資料として配布された。部門長の変更が多くあった。北日本支部の幹事(副支部長)は山形市立病院済生館の居鶴一彦さん、学術部門長のトップは新潟医療福祉大学の渡邊博昭さんになった。支部の運用マニュアルを各部門長、部門員が統一して運用できるようにマニュアルを来年度から使用出来るよう作成する予定である。医療法等の一部を改定する法律が平成 30 年 12 月 1 日に施行され、精度管理責任者を置くことを義務づけられたことが、日臨技理事より報告があった。まだ年度途中ではあるが、北日本支部の各研修会の会計報告があったが、今のところ赤字を出した研修会はなく受講者も多く参加した。31 年度の研修会予定(別紙)は 9 月開催予定の微生物部門と生物化学免疫部門の研修会がバッティングしており開催日を調整中である。10 月 5 日、6 日に山形で第 8 回北日本支部医学検査学会が開催され、会場は山形テルサ、霞城セントラル他で行われる。第 68 回医学検査学会は 5 月 18 日、19 日に下関市で開催される。6 月には青森県と福島県の医学検査学会が開催、岩手県医学検査学会は 10 月を予定している。平成 32 年度の第 69 回医学検査学会は 4 月 25 日、26 日に仙台国際センター他で開催される予定である。衛生検査所地区委員会調査指導員の役員の改正の時期が来ており、岩手県では総合花巻病院の伊藤元会長が委員になっている。引き続き伊藤元会長に留任して頂くこととなった。

II 議題

・日本臨床検査技師連盟について

日本臨床検査技師連盟の加入者数は低調であり、特に岩手県の加入者数は 10 名である。臨床検査の発展並びに臨床検査技師制度の向上の為に加入して頂きたい。公務員の加入についての考え方は各県問題になっているらしいが、日臨技としても今後、公務員の連盟加入について見解を出す予定である。公務員が個人で加入するには問題ないと思われるが、地方公務員法では施設内で政治活動や勧誘は行ってはいけないこととなっている。国会議員等に対する渉外活動は必要であり臨床検査技師の地位向上の為に連盟に加入して頂きたい。平成 31 年からは年会費 3000 円となる。協議の結果、理事は最低限加入することとなった。

・サイボウズの利用停止について

来年 4 月にサイボウズ Live が終了する。サイボウズに代わる無料グループウェアにはサイボウズと同様の機能があるが、セキュリティー等に問題がある。サイボウズ Office を月 1 人 500 円で 33 名利用するとして年間 198,000 円経費が増加する。岩臨技で取り扱うデータは個人情報を含んでいるものがあるので情報漏えいはあってはならない。協議の結果、来年度はサイボウズ Office を利用することとなっ

た。

- ・ホームページの作成について

現在の岩臨技のホームページはボランティアで行っており個人に負担が掛かっている状況である。ホームページ作成には会費の値上げが必要である。ホームページを一度に作り上げるには初期経費がかかるので段階的に進める。他県のホームページや日臨技のホームページを参考にしていきたい。ホームページ上でカレンダー機能や掲示板機能などサイボウズと同様の機能を持たせることも可能であると思われる。ホームページの利用者は少ない状況であるが、来年度はホームページ作成準備期間とし、利用者が増えるよう内容や利便性を充実させていくこととなった。

- ・岩臨技年会費について

サイボウズ Office、ホームページ作成の経費増加で会費の値上げは必須である。また昨年度は黒字であったが、例年会計は赤字となっている。平成 32 年度岩手県開催の北日本支部医学検査学会経費も足りなくなる恐れがある。岩臨技の会費は 5,000 円であり、北日本では青森県は 8,000 円、山形県は 7,000 円、新潟県は 6,500 円、秋田県、福島県は 6,000 円である。日臨技への報告(次年度の年会費の登録)は 12 月中旬であり、総会で承認を得てからの会費値上げとなるので実際の値上げは平成 32 年度分からとなる。会費が値上げされた分、会員に還元できるように研修会の充実やホームページの機能を増やし、部門員、各地区役員の業務軽減、利便性の向上につながるようにし、また会員数を増やす方法を今後、検討していくこととなった。協議の結果、会費の値上げ額 2,000 円とし次期総会に諮ることとなった。

III 各事業について

1、総務部(菊池)

- ・会員名簿の間違いがさらに数件あった。次回の会報いわてに正誤表を載せることとなった。名簿は 2 年に 1 回出しているが会則には規定はない。作成には労力がかかっている。次回作成する際には日臨技の名簿を利用することとなった。

2、学術部

- ・初級・職能開発講習会が平成 31 年 3 月 3 日(日)に岩手県立中央病院で行われる。詳細は会報等にてお知らせする。
- ・認知症対応力向上講習会 B が平成 31 年 2 月 9 日(土)、10 日(日)に岩手医科大学附属循環器医療センター 3 階研修室で行われるが定員 15 名に既に達している。
- ・岩臨技の精度管理調査の報告書は今まで CD-R で郵送していたが、今後は日臨技ホームページからダウンロードするか又はメール添付にしたい。精度管理報告会は平成 31 年 2 月 16 日(土)岩手医科大学附属循環器医療センター 9 階で行われる。そのあとに総合管理部門との合同研修会が行われる。

3、公益部(川村)

- ・検査と健康展 in 北部について

11 月 25 日(日)、二戸ショッピングセンターニコアで行った。実務委員 36 名。(医師 1 名含む)来場者数は 102 名と目標の 100 名に達した。実施内容は実施検査として肺年齢測定機器と血糖測定器を行った。また検査説明相談コーナー、健康啓発パネル展示等を行った。肺年齢検査で借用していた 3 台のうち 2 台が故障しており使用出来なかった。センサーの劣化であると思われる。装置のチェックは貸出の前にメーカーが行っていると思われるが、今後は開催前に装置の状態を確認したい。テント及びプロジェクタースクリーン等を購入した。(決算書は別紙)総括として広大な面積を持つ岩手県において各地区を地

道にきめ細かく巡回することで県民への健康に対する啓発活動と臨床検査技師の認知度向上を行えた。次回は南部地区(一関市)で開催することとなった。

4、生涯教育(宮本)

- ・助成対象の研修会の登録数が現在 17 件で例年よりペースが遅い状況。講習会、研修会の登録数が現在 36 件でこちらも例年より開催が遅れている。これから 2 月、3 月の開催を加えれば例年通りの開催数になると思われる。

- ・日臨技精度管理調査サポート助成について

日臨技に問い合わせしてみたところ、『日臨技精度管理サポート事業(都道府県技師会開催)助成金』は日臨技の精度管理調査において C・D 評価を受けた施設を対象に結果検討会等の精度管理に関する内容の研修会実施を条件としている。岩臨技の精度管理調査検討会や研修会と一緒に開催しても問題ない。参加人数によるが最大 70,000 円の助成金が出る。日臨技から講師が来るわけではない。プログラムの一例として各分野に分かれて各設問・症例についてそのポイントを解説し、分析分野については基本的な機器試薬管理のポイント、校正・分析の評価方法、内部精度管理の評価方法を考えることで外れ値の発見の仕方やその改善方法等について各施設と意見交換している。開催は県単位で行われる。今年度の開催は難しいので来年度から開催できるよう検討していくこととなった。

5、事務局報告事項(畠山裕司)

- ・平成 30 年 10 月 6 日から 12 月 7 日までの事務局活動報告(詳細は別紙)
- ・12 月 14 日、15 日に技師会館で行われる災害派遣技師研修に菊池副会長が参加する。
- ・2 月 18 日(月)に仙台で行われる臨床検査薬協会主催のプロモーション地区会に高橋常務理事が参加することとなった。

6、各地区活動報告について

〈盛岡地区：川村〉第 68 回研修会を 2 月 2 日に盛岡市立病院で行う。内容は接遇研修と尿沈査検査についてである。研修会終了後に懇親会を開催する予定である。

〈中部地区：相原〉第 3 回研修会を 1 月 26 日に県立胆沢病院で行う。内容は血液凝固関連で凝固検査検体の取り扱いと新しい DIC 診断基準についてである。

〈南部地区：小野寺〉11 月 18 日に第 23 回岩手県医学検査学会を開催した。学会を振り返って気づいた点、問題点、反省点等を表にまとめたので別紙を参照してほしい。最終来場者数は会員 79 名、賛助会員 44 名、一般 88 名の合計 211 名であった。平成 31 年開催担当の中部地区へは宮古地区からのファイルに南部地区分(今学会分)を加え、引き継ぐこととしている。(学会総括の詳細は別紙参照)気仙ボケ一座の公演は大盛況であったが一座の事前アナウンスがあったと思われる。

〈三陸地区〉10 月 6 日(土)に宮古病院イベントホールにて第 2 回研修会を行った。内容は 2 名の講師を招き『腹部・消化管エコーを基礎から学び技術を磨く』と題して講義とハンズオンも交えて開催した。